

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000146		
法人名	社会福祉法人 大和福寿会		
事業所名	グループホーム オアシスキズリ (さくらんぼユニット)		
所在地	大阪府東大阪市衣摺2丁目9番13号		
自己評価作成日	平成24年1月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年々重度化の傾向にあり、介護量が増えてきていますが、重度化してもグループホームらしさを忘れずに、入居者お1人お1人がその人らしく、穏やかに安心した共同生活がおくれるように努力しております。又、主治医との連携を密にとり健康管理を充実させ、ご本人、ご家族の希望によるターミナルケアも実施しております。  
防災においては、災害や火災等に備え、年2回の避難訓練において、地域消防団や隣接する大学の体育系クラブ寮の大学生にも参加していただき、施設内を把握して頂くとともに、実際に避難誘導の訓練に参加して頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年2月、医療法人隆星会を母体として設立されたグループホームである。平成21年10月から社会福祉法人大和福寿会に所属した。「地域社会に貢献し、安心、健康を提供する」ことを理念とし、職員一同がその実現に日夜取り組んでいる。職員のチームワークは素晴らしく、管理者を中心に風通しの良い組織が形成されている。食事の準備は、管理者の強い信念により食材の買い出しから調理まですべて事業所内で行い、利用者もそれぞれの能力に応じて手伝っている。医療連携体制が整っており、利用者や家族に安心感を与えている。看護師も非常勤職員として配置されており、ターミナルケアにも対応している。地域との密着度も高く、お互いに頼りあえる存在である。また、非常災害時には、近隣から救援の手が差し伸べられる協力関係ができています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年4月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・健康を提供します を理念に掲げ、毎朝朝礼時に唱和し、入居者の援助に取り組んでいます	「安心・健康を提供します」を理念とし、毎日朝礼時に全員で唱和し、管理者以下職員はその実現に向かって日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、育成会(子ども会)の行事に積極的に参加したり、施設行事に招待するなど地域との交流を図っている	地域行事に積極的に参加し、事業所行事に地域の人々を招待している。ボランティアの受け入れ、地域の清掃活動への参加の他、事業所の力を生かした地域貢献も積極的に行っている。地域との付き合いは深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、地域包括支援センターの主催による介護教室を開いたり、地域運営推進会議において、介護に対する相談を受けたり、紹介を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会、地域包括支援センター、入居者代表、家族代表、オアシス事業所代表を委員とする地域運営推進会議を2ヶ月に1回行い、活動報告や意見交換をする事により、サービスの向上に努めている	2か月毎に会議を開催している。出席者は地域代表、包括支援センター職員、利用者代表、家族代表、ホーム関係者が参加し、双方向的に話し合っている。前年の外部評価結果について、具体的な報告はしていない。	外部評価制度の目標と今回の結果及び「目標達成計画」を報告して、ホームの運営に、より深い理解と関心を持っていただけるよう働きかけが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との関係作りが大切であると認識し、必要があれば担当者に相談し、連携を取りながらサービスの向上に努めている	市の担当窓口へ行くことは少ないが電話での話し合いは多く、日常の取り組みなどの報告や相談を密にしている。細かい指導も受けサービス向上に生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族に心理的圧迫感を与えない配慮や、身体拘束を行わない工夫をしている	身体拘束は行わない。管理者から職員に、対象になる行為などは細かく指導されている。玄関や各ユニットの出入口の扉は、昼間は基本的に施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場環境を整え、介護者がストレスをためないように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと話し合い、成年後見人制度を活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書を詳しく読み上げ、質問等には説明を行い、理解、納得をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。苦情相談窓口の掲示。日常生活から出た苦情は苦情受付報告用紙に記載し、それらを運営に反映している	家族の意見は、運営推進会議、家族の事業所訪問時、家族会、などの機会に聞き、利用者の意見は、毎日の介護の中で聞き取り、運営に反映するようにしている。しかし、特に家族の意向が事業所に十分伝わっていないように感じられる。	家族の事業所に対する思いは複雑なものがあると思われる。できるだけ多くの時間をかけて、打ち解けた雰囲気の中で話し合うことで、家族の本音が聞き取れるよう、一層の工夫と努力が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行っている。改善すべき点を提案し、意見を取り入れている。必要に応じその都度意見を聞き、検討し改善反映に取り組んでいる	月1回全体会議を開催して、全員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。職員は管理者と個別に話し合う機会も多く、その都度検討し、必要なことは改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の担当、その日のリーダーを設け、仕事の内容を明確にしている。各自が自己実現出来る職場環境であるよう心掛けている。 介護福祉士受験。介護支援専門員受験。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉法人の研修会、法人内の研修、勉強会委員会に参加させている。日々の業務の中では各人がレベルアップ出来るよう指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や相互研修を行い交流を図っている。インフォーマルな集いに積極的に参加すると共に、同業者との連携、交流を図りたいと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に相談受付用紙を用い、本人や家族の思い、要望等を傾聴しサービスに反映できるように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時、相談受付用紙を用い、困っている事や、不安な事を傾聴しサービスに反映するように心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するに当たり、ご本人や家族が必要としているサービスを見極め、必要であれば地域サービスに繋げ、広く介護サービスの相談所としての機能を持っていると認識している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を高齢者として尊重し、笑顔を絶やさず入居者の立場に立ち、喜びや楽しみが共感できるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	きずり新聞を毎月発行し、日々のご様子をお知らせしています。年2回の家族会では、ご家族を交え、交流が図れるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や施設の行事に参加を呼びかけている。 知人、友人の面会を受け入れている	長年続けてきたお寺やお墓への参詣、馴染みの場所、店などへの外出、また、地域行事参加等、馴染みの人たちとの関係継続を支援している。しかし利用者も友人なども共に高齢化したこともあり、訪ねてくる人は減少している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集まり会話が出来るように配慮している。 閉じこもりがちな入居者には職員が声掛けを行い孤立しないように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡による退去が殆どで、家族の相談や支援を行うまでは至っていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃より一人ひとりに関わる時間を持ち、その人それぞれの思いを理解し、希望に副い安心した暮らしが出来るように努めている。困難な事があれば、職員、家族と話し合い本人本位に検討するよう考えている	職員は日々利用者に寄り添って生活する中で、利用者の希望、意向を、しぐさや様子から十分把握し、希望に沿うよう介護に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、家族会や面会時、又ご本人との会話の中で趣味や嗜好、生活歴を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの心身の状況を、毎日朝礼時、終礼時に申し送りを行う事により、職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望を傾聴し、得た情報をカンファレンスや会議等を通じ、スタッフ全員で検討し、介護計画を作成し、実践できるように心がけている。	利用者の状況と利用者や家族の要望を基本として、全職員で検討のうえ、現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状況に変化がなければ、原則として6か月ごとに計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、連絡帳を活用し、気づいた点問題点などを記録している。ケア内容の変更が必要な場合は、連絡帳にて職員に周知徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望や状況に応じて、通院やその他送迎の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の方に地域運営推進会議に参加していただき、地域住民のニーズを把握するように努めている。地域での行事には積極的に参加をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族の希望を聞き取り従うようにしている。常日頃より主治医との連携を密にし緊急時に関連医療機関と連携できるように勤めている	入居時に家族の希望を聞き、従来からのかかりつけ医に受診を希望する場合は、それを支援している。その場合であっても、日頃より主治医との連携を図るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック、様子観察を行い異状があれば主治医に連絡を行い、受診等により健康管理に勤めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や看護師と連携をとり情報交換を行い良好な関係が保てるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、主治医と話し合いを行い、ご家族の希望に沿うよう方向性を決めている。職員に対しては会議等を用いて十分に説明しながら、情報を共有し、支援に取り組んでいる。	入居時に、将来重度化した場合の、事業所での対応方針についての説明を行い、医師が終末期に近づいたと判断した時、改めて看取り介護についての同意書を取り交わし、関係者全員がこれらの情報を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医より注意、指導を受け緊急時に対応している。感染症等の取り扱いは、オアシスグループ感染症対策委員会の委員により教育を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、近隣の学生寮の学生に参加して頂き年2回の防災避難訓練を実施している。スプリンクラー設置終了	年2回消防署の指導の下に避難・消火訓練を行っている。近隣の学生寮の学生の参加を得て災害時の応援体制が確立している。職員も比較的近くに住んでいて夜間でも早く集まれる。備蓄品の準備はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重しその人らしく生活がおくれるように心がけている。	利用者に対する声掛けや、接する態度は、丁寧過ぎず馴れすぎず、トイレに誘導するとき、入浴の際など羞恥心にも配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、自己決定が出来るように導き、実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活を送っていただく為に、1人ひとり生活ペースを大事にし希望に沿った援助を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容により希望のヘアスタイルにしてもらっている。衣類はご本人に選んで頂くか、家族が購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、調理、後片付けは入居者とともにやっている。	食事を楽しみなものとする管理者の強い信念により、食材の買出しから調理すべてを事業所で行っている。買出しや準備片づけを入居者も一緒にやっている。職員も一緒に楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月職員がメニューを作成し、栄養バランスが保たれるように努力している。栄養が足りているかどうかは主治医に相談を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを全員に行っている。関連医療機関である、歯科医と連携を取りながら治療管理を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットに頼る事無く、その人それぞれの排泄サイクルに合わせてトイレで排泄が出来るように援助している。失禁のある人には、その状態に応じトイレ誘導を行っている。	排泄は自立を基本とした支援をしている。各人の排泄パターンをチェック表で把握したり、もよおした場合のしぐさで察知してトイレに誘導することで、排泄の自立を支援している。昼間はパッドなどの使用をしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に気をつけ、ヨーグルトを食べていただくなど個別に取り組んでいる。又疾病により自然排便のない方には、主治医の指導の元服薬管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴していただいている。必要があればこれにこだわらず随時と考えています。拒否がある人には、無理強いをせず、曜日時間にこだわらず、気分が良いときに入浴していただいている	週2回、午前中の中の入浴を原則としているが、できるだけ本人の希望に沿うよう日、時間帯は柔軟に対応している。拒否される場合は時間、日を変えて無理のないように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人それぞれの状況に応じ、気持ちを理解し安心して就寝できるように援助している。訪室により不眠の方がいる時は、飲み物を提供したり、側に付き添い話をしたり、眠れるように援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬袋の名前を確認しながら援助しているが、効能等の理解するまでには至っていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の購入、調理、食後の後片付け等その人の能力に合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園やスーパー等に外出している。地域の行事に招待されたり、イベントには積極的に参加している。年に何回かはユニット毎の外食会や遠方への外出も行っている	天気の良い日は近所の公園などへ、また買い物や地域の行事、花見や遠足もしている。大阪歴史博物館、万博公園などへは車でユニットごとに全員で外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の個別の日用品は立替払いとしている。その他、ご本人が希望されるものに関しては、ご家族と相談しながら満足できるように援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に従い、希望するところに電話が出来るように援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、トイレ、廊下に四季を取り入れた飾りがあり、家庭的で暖かい雰囲気を出せるように心がけている。日中玄関は鍵をかけたらずに自由に出入りできるようにしている。	食堂と共用のリビングは多目的に使える広さがありくつろぎにもゆとりがある。季節感を取り入れた手芸品なども飾られていて、居心地良く過ごせる空間である。空気の淀んでいるところもあるが換気をすれば不快感はない。トイレ浴室等は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は決まっているが、その他ソファ等は自由に誰でも座り、それぞれ気のあった入居者同士会話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具を持ち込み落ち着き安心できるように配慮している	ゆとりのある広さの部屋で車いすにも対応した洗面設備がある。窓からの自然光もよく入り明るい。調度品は入居者が使い慣れたものを持ち込み、写真、仏壇なども置かれ、住み慣れた家庭生活の継続性が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等分かり易く表示し、入居者が迷わないように心がけている。		